

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. **67**

November 2006



大学祭開催!

大田原本校「風花祭」／小田原キャンパス「潮風祭」／
大川キャンパス「月華祭」

report

海外研修&英語研修&見学実習

topic

障害を持つ仲間と
アルプスに挑戦!





体験する

Experience

介護の一步は、相手の気持ちを理解することから。

◆高齢者疑似体験&車いす体験 ———— バリアフリー研究会

【車いす体験】(写真左)

実習室内に坂道や凸凹道を作り、車いすを押す人、乗る人の両方を体験する。少しの段差、へこみ、坂、カーブがあるだけで車いすの操作は困難になる。乗る側には予想外の動きに対する恐怖感もあるため、常に押す人が声をかけ、乗る人の気持ちになって操作することが大事。

【高齢者疑似体験】(写真上中)

「手足の動かさにくさ」「前かがみの姿勢」「視界のぼやけ」など高齢者特有の身体の変化を疑似体験する。腕や足首に重りをつけ、関節は矯正器具で固定、視野を狭め色感覚を変えるゴーグルを着用し、つま先の高い靴を履いて高齢者と同じように重心を後ろにおく。すると、階段の上り下りや凸凹道の歩行など、ふだん当たり前に行っている動作がとても大変なことに気づく。

◆手作り体験コーナー ———— スラオ (Speech-Language-Audiology)

【“手作り”を楽しもう】(写真上右)

失語症友の会“那須ひまわり会”の会員の作品を展示。押し花ハガキ、ねんどスタンプの手作りにも挑戦できる。

風花祭

第11回 かざはなさい

Photo: 大木 茂

テーマ「医心伝心 ~11年目の絆~」

今年のテーマ「医心伝心」には、“医の心をただ持つだけでなく、患者様に伝えられるようになりたい”という学生たちの思いが込められている。

今年も大田原本校の大学祭「風花祭」が、10月14日(土)・15日(日)の両日開催された。さまざまな福祉機器を実際に試用できる展示会「いきいきらいふフェスタ」、海外研修に参加した学生が海外医療事情についてレポートする「国際DAY」をはじめ、来場者が見て、聞いて、体験して、楽しめるイベントを多数開催。さわやかに晴れわたる秋空の下、学生たちの笑顔があふれていた。

考える

Think

予防医学を实践する上で重要な「検査」について知る。



◆屋内展示「乳がんを考えよう」— 放射線・情報科学科

【マンモグラフィー】

BSEとえば?— 狂牛病、ではなく「Breast Self Examination」。乳がんの発見に有効と言われるマンモグラフィーをはじめ、病院で目にするさまざまな検査機器を実際に見て、説明してもらい、病気の予防意識を高めよう。



見る

Watch

犯人は誰? 手話を頼りにミステリー版「赤ずきんちゃん」に挑戦。

◆手話劇「迷探偵赤ずきんちゃん」 ———— 手話研究部メビウス

【体の動きや表情も...】誰もが知っている「赤ずきんちゃん」を、登場人物の性格やストーリーに少し変化を加え、手話劇として公演。手話のわからない人でも身振りや口の動き、表情からなんとなく内容が想像でき、飽きずに最後まで楽しめる。簡単な手話も覚えられ、手話が身近に。

聴く

Listen

信念を持って活動する皆さんのお話に耳を傾けよう。

◆教育後援会記念講演「子守唄の力 子守唄の大切さ」

——— 日本子守唄協会代表・西館好子氏

【西館好子さん講演会場】

会場を埋める聴衆を前に、西館好子氏が「子守唄の力 子守唄の大切さ」と題して講演。母から子へ、そして孫へと唄い継がれ、親と子をつなぐ絆として大切な役割を担ってきた子守唄をもう一度見つめ直す。



◆メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン講演会

「夢に向かって一緒に走ろう」

MAWJ事務局長・大野寿子氏



【大野寿子さん】

難病と闘う子どもたちの夢をかなえ、生きる力や闘う勇気を持ってもらうことを願うボランティア活動続ける大野寿子氏のお話に、子どもから大人まで80人を超える来場者が熱心に耳を傾けていた。



ふれあう

Care

お子さま連れの来場者が安心して風花祭を楽しめるように——。



◆託児所

コミュニケーション研究部AAC

【遊びに夢中!】

E棟3階に簡易託児所が出現。お子さま連れの来場者も、ここに子どもを預ければのんびり風花祭を満喫でき、遊びに夢中の子どもの笑顔にほっと安心する。“人にやさしい大学祭”が感じられるひとコマ。

2 第11回 風花祭



4 研修&実習 Report

海外研修 (アメリカ、オーストラリア、ベトナム、中国)
英語研修 (福島県 British Hills)
見学実習 (国際医療福祉大学附属三田病院、兵庫県立総合リハビリテーションセンター)

8 小田原キャンパスレポート 第1回
市民公開講座「ライフサイクルと健康をサポートする看護」/ 潮風祭

9 大川キャンパスレポート 第6回
理学療法学科講師 安本誠一/月華祭

10 新規着任教員紹介
12 2007年度入学試験のお知らせ
13 追悼——高木維彦評議員

14 Topics & Columns

大川市との代表者懇談会 (リハビリテーション学部) / 第1回初臨
床研修指導医養成ワークショップ / <コラム> 障害を持つ仲間とアル
ブスに挑戦 (PT卒業生: 松本武志) / <コラム> 「私のおすすめ本」
第2回 (看護学科長: 中西睦子) / パソコンの公開学習会 (看護学
科) / 第1回大田原市産学官連携推進フォーラム / JRPSとちぎ 医療
講演・生活相談会 (視機能療法学科) / <コラム> 「私の主張」第2
回 (言語聴覚学科長: 藤田郁代)

16 施設インフォメーション

<附属熱海病院> 公開講座「人間ドック活用術」、第23回熱海DMポ
ートの集い / <附属三田病院> PET-CT本稼働スタート、PET-CT見
学会・講演会、「三田がんフォーラム」、動作解析室のご案内 / <山王
病院> プレネイタルビジットと新生児外来のご案内 / <国際医療福祉
病院> 「生き生き老後の健康教室」、「西那須野ふれあいまつり」に参
加 / <邦友会> 特別看護老人ホーム「おたわら風花苑」竣工 / <化
学療法研究所附属病院> 「夢は看護師」— 高校生ふれあい看護体験、使
用済みインクカートリッジを小学校に寄贈 (CSR活動) / <高木病
院> 小児科健康教室スタート、「肝臓病センター」発足、「がんセン
ター」来春オープン / <柳川リハビリテーション病院> より充実したリ
ハビリテーションサービスを目指して

20 医療福祉チャンネル774 / IUHW短信

IUHW Note

平成18年度の広報委員会の委員は下記のとおりです。
【広報委員長】 高橋泰 (医療経営管理学科長)
【広報委員】 長田泉 (看護学科) 重久加代子 (看護学科) 潮見泰蔵
(理学療法学科) 下田信明 (作業療法学科) 田中裕美子 (言語聴覚学
科) 藤田純子 (視機能療法学科) 菊地義信 (放射線・情報科学科)
安藤由美 (医療経営管理学科) 永野なおみ (医療福祉学科) 角南明彦
(薬学科) 千葉礼子 (総合教育センター) 田中繁 (大学院) 高石和
秀 (本校総務課) 高橋章子 (本校総務課) 川野研 (本校入試課) 村
山京三 (小田原キャンパス・広報担当) 原田ちはる (九州・広報担当)
山内邦雄 (東京事務所出版広報室)

研修 & 実習

・アメリカ
・オーストラリア
・ベトナム
・中国
・英語研修
・見学実習

夏休みに多くの学生は研修や実習のためにキャンパスを離れて、国内各地へ、さらには海外へと飛び立った。その体験記を指導・引率役の教員の報告とともに掲載する。

アメリカ

America 1

全力投球の学生たちに感動

総合教育センター助教 宮崎路子

学生たちのエネルギーは大したものだった。睡眠時間も十分取れないような忙しいスケジュールであったが、すべての研修プログラムに積極的に参加し、何にでも実一生懸命取り組んで真剣だった。講義もよく聴き、質問もよくした。フィールドトリップも全力投球だった。以下に私の感動トップ3を挙げてみたい。

第1位「敬老」。ロサンゼルス敬老ホームで、車いすのお年寄りたちと同じ高さまで腰を下ろして、大きなジェスチャーで「楽しんでひらいて」を歌ったり、間近で話しかけたりしている学生たちの姿を見て、感動してしまつて、写真を撮りながら涙が止まらなかった。

第2位「節約」。研修プログラム以外のオプションツアーに参加すると、多額の費用がかかる。しかし折角アメリカに来た以上は楽しみたいから、ツアーには行く。そのためには外食を減らして節約するという

精神で、電卓で予算を計算しながらやりくりしていた。脱帽。

第3位「豊かな感受性」。どこへ行っても何を見ても、素直に驚き、好奇心いっぱいによく質問をし、たくさんメモを取り、何でもチャレンジしていた。

個人旅行では体験することのできない充実した内容を今回の研修旅行で体験したように思う。まさしく「よく学び、よく遊ぶ」を実践した旅だった。参加した学生にとってこの二週間は「一生の宝」になってくれることを願っている。

America 2

「予防」に力を入れるアメリカ

医療福祉学科二年 熊谷弘恵

アメリカに行く前は、初めて日本を離れる不安と、多くのことを学ぶことができるという期待とでいっぱいであった。現地では、ミレニア社の方々はじめ宿泊地の方や通りすがりの人に支えられ、無事研修を終えることができた。

アメリカの医療福祉に触れたことは、「予防」に力を入れているということである。例えば、病院の入院日数である。入院日数が短いことで医療費を抑えられるだけでなく、寝たきりを予防することができる



万里の長城を見学 (中国)



自由時間に海へ—— (オーストラリア)



院内を隈なく視察——現地スタッフの説明に熱心に耳を傾ける (ベトナム)

Portrait



ロサンゼルス敬老ホームでお年寄りと一緒に



早くよくなってネ (ベトナム)

のである。また、高齢者ホームにおいてもアクティビティを積極的に行い、機能が衰えないように予防していた。普段から自立心の強いアメリカ人は、予防に対して積極的であった。私は日本でも予防の重要性を訴えるだけでなく、アメリカの良い点を学び、高齢社会対策に役立てていく必要があると感じた。

最後に、私はメンバー九人と宮崎先生、現地での多くの人との出会いによって、この研修が充実したものになったことを嬉しく思う。一期一会をこれからも大切にしながら医療福祉に携わり、多くの刺激を受け、日々成長していきたい。

オーストラリア

Australia 1

将来の自分の姿を重ね合わせて
真剣だった学生たち

保健学部理学療法学科教授 潮見泰藏

二週間にわたる研修旅行の引率教員として大過なく務め終えることができて、正直ほっとしている。学生の中には、言葉が不自由な上に生活に馴染めず、体調を崩す者もいたようだが、ホームステイ先のご家族が懇切に面倒をみてくださったおかげで、すぐに元気を取り戻した。総じて、無事にしかも楽しい思い出を残して研修を終了できたことを学生とともに喜ぶたい。

研修中は、毎日午前中に出席していた英語クラスで、一所懸命に知恵を絞って自分史を英訳したり、他の国からの留学生との会話を積極的に参加したりしていた。また、

治療費は無料である。日本とオーストラリア、もつと広く言えば世界各国が、各々の文化や制度を持ち、国ごとにそれらをうまく運営している。メリットがある分、デメリットも生まれてくるのは当然だが、世界の広さと文化の違いを強く感じた。

ベトナム

Vietnam 1

今なお残る戦争の爪あと

医療福祉学科講師 須藤昌寛

ベトナム研修へは総勢一七名が参加(看護六名、理学二名、作業五名、言語と経営管理が一名ずつ、さらに今回が二回目という看護の四年生が二名。蛇足だが、この二人は研修先のチャロライ病院で大歓迎を受けていた。研修では一人ひとりが大学で身につけた専門家としての視点を活かしながら、ICUやPTルームで学びを深めていった。初めは日本とは異なる医療事情や、自分の「専門外」の現場で戸惑いを見せていた者も、帰国する頃までには、すべてが大切なことなのだという認識を持つようになっていた。

ベトナムでは他にもさまざまなことを経験することができた。全長二五〇キロにもわたる地下トンネルが戦争のために作られたということや、枯葉剤の影響が今なお続いているということを初めて知った学生は、八月六日に衛星放送でヒロシマの平和祈念式を観たと教えてくれた。

普段はとても賑やかで笑いの絶えない学生諸君だったが、研修先の病院等では各部署の専門家の説明に真剣に耳を傾け、熱心にメモをとっていた。将来の自分の専門職としての姿を重ね合わせていたのだろう。その意味で、今回の研修旅行はそれぞれが目指す専門職としてのアイデンティティを強く意識するよい機会であったように思う。

今回の研修旅行のもう一つの収穫は、私も含め、他学科の学生と交流を持つことができたことである。九名の学生はすぐに打ち解けて、まるで以前から友達だったように会話も弾んでいた。この新たな交友関係をいつまでも大切にしていきたい。

Australia 2

いたわり合う優しさが根付く国

医療経営管理学科二年 西村真世

オーストラリアの人々の暮らしの中には、いたわり合う優しさがしっかりと根付いている。その基本になるのは、平等という考え方をもち、この国独特の「マイト精神」である。健康者や障害者、若者や高齢者などの区別なく、すべての人々が快適に暮らせる社会が当たり前という考えである。このいたわり合う優しさは、人々の行動だけでなく、公共施設の整備や街の環境作りにも活かされている。

また、オーストラリアが制度として定めているメデイケア。すべての国民が等しく医療を受けられる制度の核にあるのが、メデイケアと呼ばれる公的医療制度である。日本の国民健康保険制度のように、保険料の一部を個人が負担し、残りは国の負担により医療が受けられる。メデイケアに加入していれば、公立病院での入院費や診察、

病院のスタッフには本当にお世話になった。検査技師であるランさんの実家へ招待していただいた時は家族の温かさにも触れることができた。最終日は恒例になったダンスを披露。こちらも大成功だった。

Vietnam 2

人々の温かさを感じるたくまじさに触れて

言語聴覚学科三年 高水久鈴

この研修で印象に残っているのが、枯葉剤の影響を受けた子どもたちに出会ったことである。手足がない子、頭が大きい子、眼球が半分以上飛び出している子などがいた。その子どもたちを目の前にして初めて戦争の爪あとがまだ残っていること、悲惨さなどを感じた。しかし、障害を抱えながらも笑顔や絶やさない活き活きとした姿から、大きなパワーを得た。また二五歳になったベトナム人、ドクさんにわずかな時間ではあったがお会いすることができた。枯葉剤の影響を受けた方の半数は日常生活を送るのも困難であるが、その中でドクさんは社会復帰を果たし、たくましく働いていた。

研修ではまた、生と死について考えさせられた。大勢の患者さんがベッドに横たわり、人工呼吸器などの機器が鳴り響く中、目の前で静かに患者さんが息をひきとった。看護師さんから、この方は亡くなったと伝えられ、呆然とした。なぜなら、肺が動いていた。しかし、それは人工呼吸器のためにそう見えたのである。一方、チューブにつながれて声も出すことができない生後二ヶ月の赤ちゃんがいた。苦しんでも声が出せず、お母さんにも会えない。けれども、呼吸をしようとして必死であった。顔を真っ赤にして苦しむ、医師や看護師が駆けつける



シェイクスピア像の前で



Plate Dinner

けの英語を、私の目を見て真剣に聞いてくれるから、「もつと話したい」「もつと英語を使いたい」そんな思いでいっぱいになりました。そして、何よりも大学から参加したのが一五人という最高の人数だったからこそ、自分を出すこともできたし、私のやる気をアップさせてくれたのだと思います。また、この「英語F」を通じて、学部・学

私たちは、この二週間を通し、一人ひとりがこの先の人生にかけがえのない大切な何かを得た。私自身も、この一五日間で、大切な仲間、大切な経験、大切な思い出を得られたような気がする。このような素敵なチャンスを与えてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいである。

英語研修

English training

昨年度から、福島県大栄村にあるBritish ETCで五泊六日の研修を受ける「英語F」という選択科目が開講した。今年は一五名という少人数の参加だったせいか、一人ひとりに目の届く授業がたくさんあったようだ。以下に参加者の一人の感想文を引用する。

(総合教育センター 語学教育部)

やる気を引き出してくれた六日間

保健学部看護学科一年 井上祐美

英語が苦手な私にとって、六日間英語だけの生活をするということはとても不安でした。しかし、そのような不安や心配は、プリティッシュヒルズにいる間、一度も感じたことはありませんでした。

本当に毎日が楽しくて、英語で現地の先生やスタッフの方と話をし、何かを一緒にやるのが常に楽しみでした。授業も大学では絶対に考えられない一五人という少数でのレッスンで、自分が持っている英語の力を全て出して、必死に答えました。普段だったら、「わからなくてもいいや」そう思ってしまうのに…。私の単語を並べただ

中国

China

China 1

中、どんなに辛くても、必死に生きようとしていた。そんな小さな命から、大きな生きる強さを感じた。

人の温かさや家族の繋がりと研修を通して学んだことは書ききれない。言葉は通じなくとも得たものはとても大きかった。大変だったが無事に楽しく終了できたのも、メンバーや関わってきた多くの方々のおかげである。今回得たものを忘れずに、これから活かしていきたい。

中国リハビリ研究センターにて

言語聴覚学科講師 小淵千絵

夏休みが始まると同時に、学生八名との中国リハビリテーション研究センターへの海外研修がスタートした。中国リハビリテーション研究センターは、開設当時から本学と深い交流関係があり、教員の相互派遣が行われるなど、本学の国際化の一端を示すものである。

中国での研修の最大の魅力は何か。それは、各専門職の実践を目にし、協働できることだと思われる。平日は院内での研修、夜と土・日は北京市内の歴史的建造物への観光、というとてもハードなスケジュールであったが、異国の地での生活を満喫できる以上に、臨床の現場を生で体験できる貴重な機会が得られる研修期間であった。

初めて目にする中国のリハビリテーションの現状、医療システムの違い、中国独自の考え方など、想像以上の新しい発見の毎

日に、一日一日心を躍らせ、精一杯学び楽しむ学生たちの姿があった。そして一生懸命覚えたつたない中国語で、身振りや筆談も交えながら、中国の人々とコミュニケーションができる喜びを感じていたようであった。その中で、ことばや風土が違っても、向かうべき道は同じであること、すなわち、表面的な部分に相違が見られても、根本的な部分は同じであることを気づかされたのではないかと思う。そのような体験の一つひとつが学生たちの糧となり、今後目指していく職業への希望を強めることだろう。

China 2

大切な仲間、大切な経験

保健学部作業療法学科二年 中島敦美

私たちは、薬学部、言語聴覚学科、医療経営管理学科、作業療法学科の四学科、合計八人で、中国リハビリテーション研究センターで毎日実習をさせていただいた。それぞれの場所を担当の先生に専門分野のことを教えていただき、臨床経験のない私たちにとつて、とても貴重な経験になった。薬局では中国が原点である漢方を学び、S T室やOT室では見学や患者さんとのふれあいがあり、経営の面では、病院の事務職や仕組み等のお話を中心にかがうなど、一人ひとりそれぞれの場所、毎日楽しい日々を過ごした。

休日や夜は、万里の長城、按摩、抗日記念館などの観光に行き、中国の文化や歴史を体感した。また、普段の生活の中でも、日本では考えられない常識・価値観がたくさんあり、私生活での文化にも少しずつ馴染んだ。

での見学では片麻痺の高齢者が主な患者さんでしたが、三田病院では脊柱管狭窄症などの整形外科的な患者さんが多く、子どもから高齢者まで年齢層はさまざまでした。自分がまだ一年生で専門的な知識も技術もないため、理学療法の全体的な雰囲気や患者さんとの接し方などを中心に見学しました。理学療法士の方は八名おり、スタッフ同士で情報や意見の交換をしたり、一緒に患者さんにその日の体調を聞いたり、リハの状況の説明や世間話などをしたりと、とても楽しそうな雰囲気で行っている印象を受けました。

科の関係なく参加者同士仲良くなれたのも、参加して良かったなと思った理由の一つです。 毎日の英語の日記も、初めは、面倒くさそうと感じていたものの、いざ書き始めると、あつという間に、しかも英語だと余計なことを考えずに書けるので、自分の気持ちを素直に書くことができました。そして、毎日先生が添削に加えて感想も書いてくださり、本当に嬉しかったです。先生のおかげで、どんなに眠くても、これだけはやらなきゃと頑張ることができました。本当のことをいうと、参加した理由も、楽しく英語が学べそうだから、そんな単純なことでした。しかし、ここで過ごした日々は、私に予想以上のものを与えてくれました。環境、豪華な食事、イギリスの建物、プールやスヌーカーの娯楽施設など、素晴らしいものでした。できるならあと一ヶ月はいたかったなと思うくらい、私にとつては、最高の時間でした。大学での初めての夏休みに素晴らしい環境の中で最高の体験をすることができました。

見学実習

Visit practice

手すりにつかまるのと

壁に寄りかかるのとでは違うんだ

リハビリテーション学部 理学療法学科一年 小牧俊也

九月二〇日の午前中、東京の附属三田病院リハビリテーション科に見学実習に行きました。前期期間中に三回見学実習があったので、今回が四回目になりました。大川

ですが、話を聞いたところ、手すりだとしてつかつかんでいれば体重をかけられるだけでなく、反対側に倒れることもないということでした。高齢者や脚の不自由な方の気持ちになつていなかったこと、そこまで考えつかなかつたことに自分の未熟さを実感しました。大学の講義だけではそういつた方の気持ちになることは難しいと思うので、今後も積極的に今回のような実習や高齢者と接する機会を有効に活用したいと思います。午前中だけという短い時間でしたが、有意義な見学ができました。

兵庫リハセンターでの二日間
リハビリテーション学部 作業療法学科
二年 進藤沙織
二年 野中仁子
一年 横川敦彦

八月三日から二日間、大庭先生の引率のもと、私たち三名は、神戸市にある兵庫県立総合リハビリテーションセンターに実習に行ってきました。

兵庫県立総合リハビリテーションセンターは、中央病院、自立生活訓練センター、福祉用具展示ホール、障害者のための自動車運転訓練施設などからなる、社会復帰を目的とした総合リハビリテーションセンターです。

一日目、私たちは、実際の作業療法士の先生方が作業療法を行う様子を間近で見学し、またグループワーク(レクリエーション)に参加させていただきました。ここでは、患者さんとのコミュニケーションに際しては単に話をするだけでなく、患者さんの表情や反応を読み取りながら精神的なケアを行うことの大切さを学びました。福祉用具展示ホールでは、車いすや段昇降機などの福祉用具を実際に体験しました。車いすといっても全て同じタイプではなく、対象者に合わせてさまざまなタイプがあり、その数と種類の多さに驚かされました。また、その日の夜には作業療法士の先生方に食事とカラオケに連れて行っていただき、仕事中的先生方とは違った一面を見ることができ、とても楽しかったです。皆さんにも大庭先生の歌声を聞かせてあげたかったな(笑)。

二日目は、自立生活訓練センターで見学実習を行いました。ここでは、頸髄損傷者



福祉用具展示ホールにてスタッフの方と

今回の実習で私たちに最も印象的だったのは、患者さんがそれぞれの目標に向かって積極的かつ意欲的にリハビリテーションに取り組んでおられ、その姿から、社会復帰をしたいという強い思いが感じられたことです。また、その思いに応えようとする作業療法士の先生方の熱心な姿勢からは、作業療法士と患者さんとの強い絆を感じました。私たちは作業療法士の先生方や患者さんから多くの貴重な経験をさせていただきました。この経験を今後の勉強や実習に活かしていきたいです。

小田原保健医療学部 新たな1ページ



4月に開設された小田原保健医療学部。学生たちのいきいきとしたキャンパスライフや学部としての取り組み、地域の皆さまとの交流などを紹介していきます。



はじめに本学部の田中富久子学部長が挨拶に立ち、「タッチケアは赤ちゃんの脳の発達にとって、とても重要な効果的な方法。赤ちゃんがストレスを感じない良い方法を学んでいっていただければ幸いです」と述べた。

続いて島内節看護学科長が「今回の公開講座は、市民の皆さまのアンケート結果をもとに内容を考えました。毎回、人々の年代順にテーマを変えて行います。皆さまに積極的に参加していただき、受講してよかったと思われる内容にしていきたいと考えます」と挨拶した。

講座は、井村真澄助教授が講演し、講演後は赤ちゃんの人形を使用して、タッチケアの具体的方法について実技を行った。

「赤ちゃんへのタッチケアは、誕生から生涯を終えるまで、人間にとって不可欠な関わりです。終戦より母子分離が進み、その間子育てをした世代が現在の五〇〜七〇代の方々。これからはそういった年代の方々にもタッチケアの魅力を伝えていきたい」（井村助教授）

講座に興味のある方は、本学部総務課までお問い合わせください（☎〇四六五二二一六五〇〇）。（学務課 村山京三）

「潮風祭」に九〇〇人が来場！

一〇月二八日・二九日の二日間、小田原キャンパス初の大学祭「潮風祭」が盛況のうちに開催された。学生による学友

会が組織されたのは七月末。その後、大学祭実行委員会が発足。経験も伝統も、何も無いところからのスタートだった。

開催前、「一人が二役も三役もこなさなければならぬ」と話していたのは実行委員長 田邊秀明君（作業療法学科一年）。

確かに、初めての経験と人手不足が相まって、準備作業も宣伝も後手にまわがちとなった実行委員だったが、そんな彼らを支えたのは、他ならぬ本学部の学生たちであった。メインアーチの製作時、

たまたま通りかかった男子学生が力仕事を手伝い、ラウンジに居合わせた女子学生が装飾品作りを手伝っていた。当日も、

進行で忙しい実行委員を助けるべく、有志の学生たちが駆け回り、大きな声でイベントの宣伝に協力してくれた。第一回潮風祭成功の要因を、実行委員はこう振り返る。「人数が少なく本当に大変でしたが、そのぶん意思の疎通がうまくとれました。『皆でやっぺいこう』という力が強く働き、全員参加の大学祭となりました。

この「潮風祭」での活動は、サークル、そして学科に今までの以上よき思い出と団結力を残したのではないだろうか。実行委員会・学友会のリーダーシップと、

学生全員の温かく力強いパワーにあらためて拍手を送りたい。（学務課 成田光昭）

Photo report

「潮風祭」という名称は、学生からの公募と投票により決定。小田原の校舎から見わたせる相模湾——豊かな自然を肌で感じ、海のように大きな心を持って患者様とともにその症状や病状に正面から向き合える医療福祉の従事者になりたい……そんな想いが詰まっている。



ライブやダンスで盛り上がった後夜祭



記念講演「青年期の心と成長」（学生相談室臨床心理士・日下部守氏）



目白大学のサークルを招いての「バレーボール招待試合」

潮風祭

カフェや屋台などの模擬店のほか、学科体験コーナー、市内福祉団体との合同フリーマーケット、ライブ、ビンゴ大会など、来場者の皆さまと学生たちが一緒に楽しむイベントが多数開催された。

下写真：安本講師と学生たち



物理学の知識を 専門分野へ生かす！

理学療法学科講師 安本誠一

率」や「浮力、水圧、フックの法則、質量と重さの違い、熱量、比熱」などは、高校に入ってから「物理分野」で初めて習う項目になっている。つまり、医療現場で大切な「力」「圧力」や「熱」などの基礎概念を知らないまま大学へ入学してくる学生たちが増えているのである。

前期に物理学の講義は終了したのであるが、一期生よりも物理学の履修者は減らしていった。やはり、学んでくる学生たちが増えているのである。

研究のできる療法士をめざせ！

リハビリテーションの現場では、先人の経験で鍛えられた現場の手法や治療法が後輩の療法士たちに伝えられていると思う。それに加えて、物理学的な原理・

リハビリテーション学部の大学祭「月華祭」が、一〇月二八、二九日の二日間にわたり開催された。今年で二回目となった大学祭だが、昨年度を大幅に超える多数の来場者を迎えることができた。

第二回 月華祭——一年生、二年生の協力が成功に貢献

大学祭実行委員長 江里口恵介

からの協賛、企画への参加をいただくことができ、感謝している。また、今年是一年生が加わったことで、昨年以上に色々なことにチャレンジでき、加えてそれぞれの企画の充実を図ることができた。一年生、二年生の協力が、前夜祭、

はもろろんのこと、一般教育課程も重要な場面が多い。後期から保健医療統計学の講義が始まる。学生は、また不安そうな表情に戻ってしまうであろうか。卒業後、現場の経験を確実に継承し、現手法の改良や新しい手法の発見ができるように、チャレンジ精神を持って勉学に励んで欲しいものである。



大学祭実行委員会の面々



YO-YO-釣りは人気屋台の1つでした

下写真：小田原キャンパス初の学園祭「潮風祭」より

永瀬宗重 (ながせ・そうじ)
①腎臓内科学 ②1954年5月23日 ③山形大学医学部 ④腎臓内科学 ⑤筑波大学大学院人間総合科学研究科病態制御医学専攻腎臓病態医学分野助教授 ⑦透析患者や人間ドック受診者における酸化ストレスの評価、透析患者の抗酸化ならびにアンチエイジング療法(特にサプリメントの有用性に関して)、新しい透析法の開発(特に特許取得の遮光透析の臨床応用) ⑧日本腎臓学会認定専門医・指導医、日本透析医学会認定専門医・指導医、日本内科学会認定内科医、日本アレルギー学会評議員、日本抗加齢学会会員、国際腎臓学会会員、アメリカ腎臓学会会員、ヨーロッパ腎臓移植学会会員



安達実樹 (あだち・みき)
①外科・消化器センター/教授 ②1951年4月1日 ③東京大学医学部医学科 ④消化器一般外科、大腸肛門病、大腸内視鏡 ⑤帝京大学医学部医学科助教授 ⑦大腸癌の集学的治療、腹腔鏡下手術、腹部救急疾患の診断と治療 ⑧日本外科学会指導医、日本消化器外科学会指導医、日本大腸肛門病学会指導医・評議員、日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本臨床外科学会評議員、日本外科系連合学会評議員、日本腹部救急医学会評議員、日本臨床内視鏡学会評議員、日本成人病(生活習慣病)学会評議員、International Society of University Colon and Rectal Surgeons (Member)、身障者(聴覚又は直腸機能障害)認定医、日本医師会認定産業医



日隈ふみ子 (ひのくま・ふみこ)
①大学院教授 ②京都大学大学院人間環境学研究所博士後期課程修了 ③助産学 ④京都大学医学部保健学看護学専攻教授(家族看護学講座) ⑤助産学特論Ⅱ・Ⅵ・Ⅹ、助産学演習Ⅱ・Ⅵ・Ⅹ、他 ⑦出産に関する研究、助産学教育に関する研究、助産の歴史に関する研究等 ⑧日本助産学会評議員、日本母性衛生学会理事、学術振興財団法人文化プロジェクト研究・文化としてのリプロダクション研究会メンバー、正常出産カンファレンス主催者等



arrives anew
新規着任教員紹介

教員氏名
①所属・職名
②生年月日
③最終学歴
④専門分野
⑤前職
⑥授業担当科目
⑦今後の研究課題
⑧学会役職・その他
Photo

吉野肇一 (よしの・けいいち)
①一般・消化器内科/教授 ②1940年10月18日 ③慶應義塾大学医学部卒、同大学院修了 ④消化器科 ⑤慶應義塾大学看護医療学部・大学院健康マネジメント研究科教授、研究科委員長 ⑦診療ガイドラインの改善 ⑧日本胃癌学会名誉会員、日本消化器外科学会特別会員、日本癌治療学会評議員・監事、北西ドイツ外科学会評議員、日本消化器病学会財団評議員、日本リンパ学会評議員、日本結核学会評議員、日本臨床外科学会評議員



遠藤久子 (えんどう・ひさこ)
①病理部長/教授 ②1946年3月8日 ③群馬大学医学部医学科卒 ④人体病理学、造血器の病理、発生発達の形態学 ⑤前東京大学医学部講師 ⑦病理診断学(特に頭頸部・乳腺腫瘍) ⑧日本病理学会認定病理医、日本病理学会評議員、日本臨床細胞学会認定細胞診指導医、日本臨床検査医学会認定検査医、国際細胞学会認定医



武藤正樹 (むとう・まさき)
①大学院教授 附属三田病院副院長 ②1949年3月8日 ③新潟大学大学院医科学研究科修了 ④病院管理学、外科学 ⑤国立病院機構長野病院副院長 ⑥医療経営施設経営学特論、医療経営施設経営学演習、医療経営施設経営学特別研究Ⅰ・Ⅱ ⑦医療連携、クリティカルパス、疾病管理、ジェネリック医薬品医療材料、DPC、医療安全 ⑧日本医療マネジメント学会理事、日本ジェネリック研究会会長、日本疾病管理学会会長



岡崎勲 (おかざき・いさお)
①予防医学センター(内科)/教授 ②1941年3月29日 ③慶應義塾大学大学院医学研究科内科学専攻修了 ④消化器肝臓病学および健康科学 ⑤東海大学医学部教授 ⑥公衆衛生学 ⑦従来から取り組んできた肝硬変の遺伝子治療、メタボリックシンドロームにみられる脂肪性肝炎の予防と治療、がん検診のシステム化の研究、新たに臨床医の立場から医療保険制度を課題とする ⑧日本公衆衛生学会監事、日本肝臓学会専門医・前役員、日本消化器病学会専門医・評議員、日本医師会客員研究員



草野修輔 (くさの・しゅうすけ)
①リハビリテーション部部長/教授 ②1954年6月3日 ③福島県立医科大学医学部卒 ④リハビリテーション医学 ⑤埼玉医科大学総合医療センター・リハビリテーション科助教授 ⑥リハビリテーション医学 ⑦障害者の運動機能、体力 ⑧日本リハビリテーション医学会専門医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医、義肢装具適合判定医、日本体育協会認定スポーツドクター、メディカルドーピングオフィサー、日本障害者スポーツ協会医学委員(アンチ・ドーピング部会長)、日本アンチ・ドーピング機構評議員、日本生活支援工学会理事



山本富士江 (やまもと・ふじえ)
①大学院教授 ②1939年7月29日 ③久留米大学大学院比較文化研究科修了 ④看護学 ⑤奈良女子大学看護学看護学看護学看護学看護学看護学 ⑥看護管理・開発学特別研究 ⑦看護管理、教育方法、看護理論と看護の質 ⑧日本協同教育学会名誉会員、日本看護研究会評議員・査読委員、第17回日本看護学教育学会企画委員・実行委員、平成18年度九州地区看護研究会会長



佐藤恭一 (さとう・やすかず)
①大学院教授 ②1964年9月30日 ③大分医科大学医学部卒 ④リハビリテーション学 ⑤リハビリテーション学 ⑦虚性心疾患の診断と治療、生活習慣病の病態是正、心臓リハビリテーション



菊池潔 (きくち・きよし)
①外科部長/教授 ②1951年03月11日 ③慶應大学医学部卒 ④一般消化器外科、乳腺外科 ⑤東京電力病院 研究室室長兼外科副科長 ⑥一般消化器外科、乳腺疾患 ⑦乳がん治療に化学療法、内分泌療法 ⑧日本外科学会指導医、日本消化器外科学会指導医、日本乳癌学会専門医



酒井成身 (さかい・しげみ)
①形成外科部長/教授 ②1945年12月14日 ③新潟大学医学部医学科卒 ④乳房再建、陥没乳頭、乳房奇形変形一般、眼瞼形成、義眼床作成 ⑤聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院形成外科部長 ⑥形成外科 ⑦専門分野と同じ ⑧日本形成外科学会認定専門医、評議員、日本美容外科学会(JSAPS)専門医、理事



高梨吉則 (たかなし・よしり)
①病院長(外科)/教授 ②1943年8月22日 ③横浜市立大学医学部卒 ④小児の先天性心疾患 ⑤横浜市立大学医学研究科教授 ⑦小児および成人の心臓・大血管疾患 ⑧日本外科学会指導医・専門医、日本胸部外科学会指導医、日本心臓血管外科学会専門医、日本循環器学会専門医



武田宜子 (たけだ・よしこ)
①大学院教授 ②1947年6月7日 ③横浜市立大学大学院医学系研究科博士課程修了 ④看護学 ⑤横浜市立大学看護短期大学教授 ⑥看護援助学特論、看護援助学演習Ⅰ・Ⅱ、他 ⑦脳血管障害・脊髄損傷・パーキンソン病・運動器疾患・糖尿病性網膜症の方々のリハビリテーションにおける看護実践のプログラムや介入効果、介護負担、障害者のソーシャルスキルと社会参加に関すること ⑧日本整形外科看護研究会会長



税所宏光 (さいしょ・ひろみつ)
①院長(内科)/教授 ②1940年5月29日 ③千葉大学大学院医学研究科内科学専攻博士課程修了 ④消化器、肝胆膵 ⑤千葉大学大学院腫瘍内科学教授 ⑦合理的ながん医療の推進 ⑧千葉大学名誉教授、消化器専門医、消化器内視鏡専門医、超音波専門医、肝臓専門医、日本消化器病学会理事、日本消化器内視鏡学会監事、日本専門医認定機構理事



武田克彦 (たけだ・かつひこ)
①神経内科部長/教授 ②1953年8月23日 ③東京大学医学部医学科卒 ④神経内科学 神経心理学、高次脳機能障害学 ⑤日本赤十字社医療センター神経内科部長 ⑥日本神経学会専門医、評議員 日本リハビリテーション学会認定医 日本神経心理学学会理事 日本高次脳機能障害学会監事 日本内科学会認定医



林 洋 (はやし・ひろし)
①内科/教授 ②1953年7月21日 ③東京医科歯科大学医学部卒 ④代謝・内分泌 ⑤横浜市立みなと赤十字病院第二内科部長 ⑥日本内科学会認定内科医、日本人間ドック学会評議員・認定医、日本動脈硬化学会評議員、米国生理学会会員、米国心臓学会会員(FAHA)、米国糖尿病学会会員



坪井良子 (つばい・よしこ)
①大学院教授 ②筑波大学大学院教育研究科リハビリテーションコース修了、学位:修士(リハビリテーション)、博士(学術) ④看護学 ⑤山梨大学大学院医学工学総合研究部教授、山梨大学名誉教授 ⑥看護管理・開発学特論、他 ⑦リハビリテーション看護、障害を持つ人の自立支援、基礎看護学領域、看護とリハビリテーションの歴史的研究 ⑧日本看護研究会評議員、日本リハビリテーション看護学会副理事長、日本看護科学学会評議員、山梨大学看護学会第1回学術集会長等を歴任、日本生活支援工学会評議員(2004年から現在) 日本人事試験センター試験委員(1985年から現在)



国枝武義 (くにえだ・たけよし)
①臨床医学研究センター、循環器部長/教授 ②1937年2月23日 ③慶應義塾大学医学部卒、同大学院医学研究科内科学内科学博士課程修了 ④循環器、肺高血圧、肺塞栓 ⑤慶応義塾大学伊勢原病院内科教授 兼 病院長 ⑦肺高血圧症の治療 ⑧日本循環器学会専門医、日本心臓病学会正会員(FJCC)、米国胸部疾患学会会員(FCPP)、国際心臓移植学会会員、日本呼吸器学会専門医・指導医、日本内科学会認定医



江口光興 (えぐち・みつおき)
①小児科/教授 ②1940年7月19日 ③信州大学医学部卒 ④小児血液学、小児てんかん ⑤獨協医科大学小児科学(血液)教授 ⑧日本小児科学会専門医、日本血液学会専門医・指導医、日本臨床血液学会、日本臨床分子形態学会功労会員、日本小児血液学会、日本医学教育学会功労会員、日本児童文芸協会



牧野駿一 (まきの・しゅんいち)
①小児科/教授 ②1946年1月22日 ③東邦大学医学部卒 ④小児外科、腫瘍、新生児外科 ⑤おやまし病院 副院長 ⑧日本外科学会認定医、日本小児外科学会専門医及び指導医、日本小児がん学会会員、日本新生児学会会員



中野重行 (なかの・しげゆき)
①大学院教授 臨床試験研究分野責任者 ②1940年12月8日 ③岡山大学医学部卒、九州大学医学部大学院修了 ④臨床薬理学、心身医学 ⑤大分大学医学部附属病院院長・大分大学学長補佐 ⑥臨床試験研究特論、臨床試験研究演習Ⅰ・Ⅱ、他 ⑦創薬育薬医学と創薬育薬医療、臨床試験の論理と倫理、臨床薬理学、医療コミュニケーション、CRCの育成 ⑧日本臨床薬理学会理事(前理事長、認定CRC制度委員会委員長)、日本心身医学会評議員、日本薬理学会評議員、日本学術会議連携委員、CRC連絡協議会代表世話人、大分大学医学部創薬育薬医学教授(併任)



馬島徹 (まじま・とおる)
①呼吸器センター部長/教授 ②1951年7月23日 ③日本大学医学部卒 ④呼吸器、喘息・結核 ⑤日本大学医学部呼吸器内科助教授 ⑦気管支喘息の病態と治療 ⑧日本大学客員教授、日本呼吸器学会指導医 日本アレルギー学会指導医、日本気管食道学会認定医、日本内科学会認定医



菊地孝夫 (きくち・たかお)
①総合診療部長/教授 ②1949年4月24日 ③東北大学医学部卒 ④消化器、免疫、血液 ⑤栗原市立栗原中央病院院長 ⑥臨床医学概論 ⑦免疫療法の臨床応用、地域医療での病診連携 ⑧日本内科学会認定医、日本消化器学会専門医



齋藤宣彦 (さいとう・のぶひこ)
①副院長(内科)/教授 ②1941年3月28日 ③東京慈恵会医科大学医学部医学科卒 ④生活習慣病(糖尿病、高脂血症、高血圧、肥満) ⑤聖マリアンナ医科大学教授 ⑧日本内科学会認定指導医、日本糖尿病学会認定指導医、日本医学教育学会会長、日本糖尿病療養指導士認定機構理事長、日本糖尿病協会療養指導委員、医療系大学間共用試験実施評価機構理事、医学教育振興財団運営委員、医療研修推進財団評議員



野村歡 (のむら・かん)
①大学院教授 ②1940年1月3日 ③日本大学大学院理工学研究科修了、工学博士 ④建築学 ⑤日本大学理工学部教授 ⑥福祉住環境概論、福祉住環境特論(住宅、社会福祉施設、公共建築物、公共交通機関、まちづくり)



二〇〇七年度 入学試験のお知らせ

二〇〇七年度入試は高校推薦入試を終え、まもなくセンター試験利用入試と一般入試の時期を迎えようとしています。〇七年度からは全学部でセンター試験利用入試を導入するほか、一般入試前期では地方試験場を拡充していますので、より受験しやすくなっています。また、本学の入学試験は現役高校生から社会人まで広く門戸を開いているのが特徴です。これを利用して、医療福祉の専門職を目指す多くの方々が、本学の入学試験にチ

ヤレンジし、合格を勝ち取っていただきたいと願っています。

●入試トピックス

- ・二〇〇七年四月、リハビリテーション学部（福岡県大川キャンパス）に言語聴覚学科を開設します。理学療法学科も定員を四〇名から八〇名に増員します。詳しくはリハビリテーション学部（☎〇九四四・八九二〇〇〇）までお問い合わせください。
- ・センター試験利用入試の成績上位者五学部あわせて十四名程度に初年度授業料を全額免除します。
- ・一般入試前期では、同一学部において二回、入試日程の違う学部・学科を合わせ

れば最大六回の受験が可能です。センター試験利用入試との併願も可能です。入試に関するお問い合わせは入試課まで（☎〇二八七・二四三二〇〇）お寄せください。（入試課 本宮祐輔）

進学相談会&特別講演会を開催

本学は、今年も恒例となった秋期の進学相談会&特別講演会を熱海、横浜、仙台、水戸、東京、高崎の六都市で開催し、多くの受験生やその家族、高校や予備校の教職員の方を集めた。特別講演会については、東京を除く五会場で「看護・薬・医療・福祉系の入試と国際医療福祉大学入試対策について」と



和田教授の講演

2007年度入学試験日程						
※日程は2007年度募集要項を必ずご確認ください。						
入試区分	学部	入学試験日	試験地	出願期間 [消印有効]	合格発表日	
第2回社会人特別選抜	保健学部	12月16日(土)	(保健・医療福祉・業) 大田原	11月30日(木) ~ 12月8日(金)	1月5日(金)	
	医療福祉学部		小田原(保健医療)			
第2回留学生特別選抜	薬学部	12月16日(土)	[小田原保健医療] 小田原	11月30日(木) ~ 12月8日(金)	1月5日(金)	
	小田原保健医療学部		[リハビリテーション] 大川			
留学生特別選抜	リハビリテーション学部	12月16日(土)	[リハビリテーション] 大川	11月30日(木) ~ 12月8日(金)	1月5日(金)	
センター試験利用	保健学部	センター試験 1月20日(土) 1月21日(日)	-	[保健・医療福祉・業] 1月4日(木) ~ 1月19日(金) [窓口受付1月22日(月)]	2月13日(火)	
	医療福祉学部					*個別学力検査等は課さない
	薬学部					
	小田原保健医療学部					
一般 [前期]	保健学部	1月29日(月)	(保健・医療福祉・業) 仙台・大田原・東京 小田原・大阪・福岡	[保健・医療福祉・業] 1月4日(木) ~ 1月19日(金) [窓口受付1月22日(月)]	2月13日(火)	
	医療福祉学部	1月30日(火)	[リハビリテーション] 東京・大阪・広島 福岡・大川・鹿児島			
	薬学部	1月30日(火)	[リハビリテーション] 東京・大阪・広島 福岡・大川・鹿児島			
	リハビリテーション学部	1月31日(水)	[小田原保健医療] 東京・横浜 小田原・名古屋			
	小田原保健医療学部	1月31日(水)	[小田原保健医療] 東京・横浜 小田原・名古屋			
	保健学部	2月1日(木)	(保健・医療福祉・業) 仙台・大田原・水戸 高崎・東京			
	医療福祉学部	2月2日(金)	[リハビリテーション] 福岡・大川・宮崎			
	薬学部	2月2日(金)	[リハビリテーション] 福岡・大川・宮崎			
	リハビリテーション学部	2月3日(土)	[小田原保健医療] 横浜・小田原・静岡			
	小田原保健医療学部	2月3日(土)	[小田原保健医療] 横浜・小田原・静岡			
一般 [後期]	保健学部	3月2日(金)	(保健・医療福祉・業) 大田原・東京	[保健・医療福祉・業・小田原保健医療] 2月14日(水) ~ 2月22日(木) [窓口受付2月23日(金)]	3月9日(金)	
	医療福祉学部	3月3日(土)	[小田原保健医療] 小田原			
	薬学部	3月3日(土)	[小田原保健医療] 小田原			
	小田原保健医療学部	3月5日(月)	[リハビリテーション] 福岡・大川			
	リハビリテーション学部	3月5日(月)	[リハビリテーション] 福岡・大川			

※リハビリテーション学部言語聴覚学科は2007年4月開設予定のため、日程等詳細は2007年度募集要項を必ずご確認ください。なお、2007年度はセンター試験利用入試を実施いたしません。



故・高木維彦氏

【故・高木維彦氏略歴】

- 昭和4年12月 福岡県大川市にて誕生
- 昭和22年3月 旧制福岡県立三瀬中学校卒業
- 昭和25年3月 旧制第七高等学校卒業
- 昭和29年3月 熊本大学医学部卒業
- 昭和29年4月 熊本大学医学部附属病院で実地研修
- 昭和30年4月 熊本大学医学部第二外科入局
- 昭和34年12月 医学博士の学位授与
- 昭和35年1月 高木外科医院開業
- 昭和43年12月 高木病院開設、病院長就任
- 昭和60年6月 医療法人社団高邦会を設立、理事長就任
- 平成10年10月 社会福祉法人高邦福祉会設立
- 平成11年2月 学校法人高木学園設立
- 平成12年7月 医療法人社団高邦会会長就任
- 平成18年6月 永眠（享年七十六）

追悼

学校法人国際医療福祉大学評議員 高木維彦氏のご逝去

本学の評議員で医療法人社団高邦会会長の高木維彦氏が、六月一日にご逝去されました。七六歳でした。同月一日に通夜、翌五日には高木家、医療法人社団高邦会、学校法人高木学園、社会福祉法人高邦福祉会による合同葬が、国際医療福祉大学リハビリテーション学部の講堂で執り行われました。葬儀には、医学界を代表する方々をはじめ、地元自治体の首長、福岡や関東の財界人ほか、各界の著名人も国内外から参列しました。星子卓前柳川山門医師会会長、渡辺喜美衆議院議員、一ノ瀬穂積大川三瀬医師会会長、倉本進賢久留米大学名誉教授ら四人の方が弔辞を述べ、また喪主として高木邦格理事長が「郷土

の方に愛され、皆様にお世話になり、本当に幸せな人生だったと思います」と参列者への感謝の言葉を述べました。故人の略歴は別掲しましたが、本学との関係で言えば、国際医療福祉大学の礎を築いた方だということです。大学を設立するということは大事業ですが、資金調達が難題の一つでした。高木邦格理事長が東奔西走し、各界の協力を仰ぎましたが、当時はちょうど日本経済のバブルが崩壊した時期、予定した寄付金も思うように集まりませんでした。この難局を打開したのが、故人が設立した高邦会および高木家の個人資産からの多額の寄付でした。寄付申し出の背景には、もちろん医療福祉系の大学創設への精神的サポ

ートがありました。故人の熱い思いに支えられて今の本学があるということに改めて心に銘じつつ、故人のご冥福をお祈りいたします。

以下には高邦会副理事長で葬儀委員長を務められた山口雅也氏の「ご挨拶」を、高邦会の広報誌『ライフ・アップ』の「高木維彦会長追悼特別号」から一部改めて再録します。

一医療人、「故高木維彦」の受け継いで行くべき精神と伝えていきたいその夢

医療法人社団高邦会副理事長 山口雅也
平成一八年六月一日、医療法人社団高邦会 高木維彦会長が、呼吸不全のために逝去いたしました。七六歳でございました。

銘打って、新宿ゼミナーや代々木ゼミナールといった大手予備校から講師を招き、医療・福祉に関わる社会的な環境や、客観的な視点での本学の入試対策について語ってもらった。どの会場でも熱心にメモを取る学生やそのご家族が眼についた。

また、東京会場（一〇月一日はあといん乃木坂）では、『和田秀樹教授特別講演会』を開催し、『二十一世紀を勝ち抜く勉強法』をテーマとした熱弁に二〇名を超える来場者が耳を傾けた。講演の内容は「一八歳の選択は何をなすべきか」という、学生の心に問いかけるものから、「脳のウォーミング・アップ」「出力トレーニング」と具体的な日々の勉強法へのアドバイスも凝縮されており、参加者からは「具体的な勉強の仕方がわかり、受験勉強のやる気が出てきた」「自信をなくしていた時期だけに違った角度から話が聞けてうまく活用できる気がしてきた」など多くの賞賛が寄せられた。

進学相談会では、推薦入試の出願が近く控えていることもあって、春先とは違ったかなり具体的な入試や学生生活に関する質問が相次ぎ、どの会場も熱気に包まれていた。

また、進学相談会に引き続き、各地の在校生のご父兄や同窓生を集めた本学懇親会が開催され、参加の教員から在校生や大学の近況に触れていただく良い歓談の場となった。（広報室 岡田芳博）

通夜、葬儀の際にはお忙しい中、多数の皆様方にご来臨を賜りまして、誠にありがとうございました。改めて厚く御礼申し上げます。

故人は、昭和四年福岡県大川市に生れ、昭和三五年同地において高木外科医院を開業、その後昭和四三年に名称を高木病院へ変更すると共に病院長に就任、現在の酒見に移転しました。以来、大川・柳川・福岡の各地に数多くの医療・福祉・教育施設を開設、その後の関東地区における山王病院の継承、国際医療福祉大学の開学へと発展する基礎を築きました。

故人は「生命の尊厳、生命の平等」という理念のもと、医療の充実・発展に努め、救急医療から在宅医療まで一貫した体制を確立し、地域の方々に質の高い医療を提供できるよう力を尽くして参りました。また一方で、社会情勢の変化にとまらぬ、コ・メディカルスタッフの役割がますます重要性を増してきた中で、この方面の人材育成にも貢献して参りました。

このように長年地域医療の向上に貢献して参りました故人の、一医療人としての業績を振り返りますと共に、これから受け継いで行くべき故人の精神、またその夢を後進に伝えていくことが、私どもに遺された責務であると考えております。

最後になりましたが、改めて生前の故人や日頃の当グループへのご支援に感謝を申し上げますと共に、今後とも故人在世中と相も変わりませぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、切にお願い申し上げます。



Topics

大川市との初の 代表者懇談会開催

リハビリテーション学部と大川市の代表者による「第一回大川市・国際医療福祉大学代表者懇談会」が、九月十五日、同学部にて開催された。懇談会は、リハ学部が平成一七年四月に福岡県大川市に開学して以来初の会合となった。

大学側からは高木邦格理事長、大川市側からは植木光治市長など総勢一八名が参加。植木市長は「大学との連携を軸に町づくりを描いていきたい」と述べるなど、市の町づくりにおけるリハ学部への期待がますます高まりそうだ。

リハ学部からは、学生のアンケート結果を基に、周辺の横断歩道の整備や交通アクセスの充実などの要望が伝えられた。最後に、この懇談会を年一回、開催することを決定。和やかな雰囲気の中に閉会した。(九州・広報 原田ちはる)



写真上 大川市(手前)との初の代表者懇談会
写真下 植木市長をはじめ市の幹部が大学を見学

第一回初期臨床研修指導医 養成ワークショップ開催

当グループでは若い優秀な医師を育成し医療レベルを高めるため、臨床研修に積極的に取り組んでいます。研修の充実を図るためには、指導医の役割が重要であることから、初めての指導医向け講習会を開催しました。

九月二三日・二四日、本学東京サテライトキャンパスに、関連病院である国際医療福祉病院、附属熱海病院、附属三田病院、高木病院、山王病院、化学療法研究所附属病院から、日ごろ現場で活躍する医師二四名が参加しました。

講義形式ではなく、「研修目標等の作成」や「指導医の在り方」といった各テーマについて、病院の枠を越え、六人ずつ四つのグループに分かれて討論し、全体発表・討議等を行う全員参加型のユニークな講習会でした。二日間で一六時間とハードなものでしたが、朝から晩まで熱い議論を交わされた指導医の情熱が、今後研修医に伝わることを期待しています。

(臨床研修部長 上田茂)



写真上 ワークショップ参加者の記念撮影
写真下 グループ発表・討議

私のおすすめの本

第2回

東京タワー
オカンとボクと、時々、オトン

リリー・フランキー著 扶桑社 二〇〇五年

リリー・フランキーなどというふざけた名前の著者のことは何も知らなかった。でも、この本の発刊後、新聞・雑誌の書評欄が競ってとりあげたのを記憶していた。ある日、例によって東京駅のブックセンターに立ち寄ったところ、この本が平積みされていた。先頃亡くなったシナリオ作家で、リリズムあふれる名作家の久世光彦さんが、あれは「母恋歌」だと言っていたのをふと思い出し、迷わず買ってしまった。著者は今でもマルチャレントで、イラストレーターのほか幾つもの肩書きをもつ

保健学部看護学科長 中西睦子

四十男。その男が、幼少時の生い立ちから筆を起し、悪ガキの深情けみたいに母親への慕情を綴る。ときどき現れる「オトン」は正体不明だが、ふしぎに調和的な親子関係がそこにはある。この三者の距離が、読者を引っ張る。もちろん著者はがんと死した「オカン」への思いを重ねる。おかしくて、切なくて、いとしくて、心安らぐ一編である。

後日談。この本で初めて著者を知ったという読者から、「リリー・フランキーさんはエッチな文章も書くんですか?」という問い合わせが相ついでいるという。編集陣は困惑気味。かく申す私も、そんなことは知らない。

パンコンの公開学習会を開催

保健学部看護学科では、九月二日(土)SL教室にて「パンコンを使ってデータをきれいに処理しよう」というテーマで公開学習会を開催した。これには看護師の方のプレゼンテーションの技を磨きたいという意図があった。栃木全域の施設から三五名の看護師が参加し、午前の部では、一つの研究事例を紹介したのち、データの入力を行ってもらい、午後の部では、入力したデータを処理し、導き出された結果をもとに図表作成までを行った。終了後の受講者アンケートによれば、「興味深かった」、「講師の話はイメージがよく伝わった」、また、「データ処理を実



35人の看護師が栃木全域から参加

践でき、有意義で楽しい」と書いた人もいるが、「一人ではできないかもしれない」と感じた人もいた。しかし、総じて「さらなるレベルアップや研究・統計学等に関する学習会をしてほしい」と望む声も多く、地域貢献を目指して行われた今回の学習会はまずまずの成功であった。

(看護学科講師 長田泉)

障害を持つ仲間と アルプスに挑戦

佐久総合病院小海分院理学療法科
保健学部理学療法学科三期生 松本武志

二〇〇六年八月七日、私はちょっとした「挑戦」をしていました。その挑戦とは、スイスとイタリアの国境に位置するプライトホルン(標高四一六四メートル)の山頂に、仲間たちと共に立つこと。ただ、この挑戦は過去に前例のないものでした。それは、一緒に挑戦した仲間たちが、長野県の佐久地域に住む、どこにでもいるような一般市民であること。職業は、高校生、大学生、病院職員、公務員、自営業などさまざま、もちろん登山家でもなければ冒険家でもありません。そして、もうひとつは、一緒に挑戦した仲間たちのうち、二人が重度の身体障害を持っていること。彼らの持つ障害は、頸椎損傷による四肢麻痺と、筋ジストロフィー症による運動障害です。

このロボットスーツ「HAL」は、脳から末梢へ流れる生体電位を、皮膚表面に取り付けたセンサーで読み取り、運動の意思を検出し、関節に取り付けたパワーユニットを駆動する装置で、今回の登



頂上目指して。
子どもたちへ届け with dreams 登山隊
http://with-dreams.org/

山用に改良されたこのロボットスーツ「HAL」を私が装着して、障害を持つ友人を背負い、山頂を目指しました。また、もう一人の障害を持つ友人は、改良したソリに乗せ、仲間たちと共に山頂を目指しました。しかし、この挑戦には多くの問題がありました。何度も大きな壁にぶつかり、幾度も挫折しそうになりました。医学的な問題、物理的な問題、金銭的な問題、社会的な問題……。しかし、その度に仲間たちと共に必死になって、ぶつかり合い支えあって挑戦してきました。また、多くの方々からも応援をいただきました。国際医療福祉大学同窓会「マロニエ会」様からも、多くの支援金をいただきました。本当にありがとうございました。

第一回大田原市産学官 連携推進フォーラム

ものづくりへの新たな挑戦

一〇月一〇日、標記のフォーラムが大田原市内で開催された。これは大中小企業が多くある大田原市で、産業界、市を中心とした行政、大学の三者が一体となり、「新たなものづくり」への挑戦を開始しようという趣旨で開催されたもの。

主催者を代表した市長の挨拶の後、本学の谷学長が来賓代表として、事業への期待と協力について話された。パネルディスカッションでは、「医(福)工連携」を推進するために、産学官事業に経験のある方々からの報告があった。その中で特に、大学と産業界が適切にニーズとシーズ(種)を提供し合い、事業を進めることの重要性が確認された。本学の大学院からは筆者もパネラーとして参加し、また佐々木副学長もコメントーターとして議論に加わった。

今後、この事業への対応を進めるための組織作りが必要となることだろう。

(大学院教授 田中繁)

JRPSとちぎ 医療講演・生活相談会を開催

視機能療法学科では一〇月二二日、本学を会場に「JRPSとちぎ 第一回医療講演・生活相談会」をJRPSと共催、ロービジョン医学実習の一環として本学科三年生全員が参加した。JRPSは、高度な視覚障害を来す難病「網膜色素変性症」患者と支援者の会である。当日は宇都宮からの福祉バス等で多くの方が参加された。午前中は医療講演や保健師による生活相談が行われ、学生も普段の講義とは一味違った講演に熱心に耳を傾けた。昼食後は昼休みを利用して、自分たちが学んでいる様子を紹介しようとして参加の皆さんを実習室にご案内、多くの質問を受けながら交流を深めた。午後は「患者から伝えたいこと」というテーマでシンポジウムが行われ、医療の現場に望むことなど、日頃なかなか伺えない患者さんの生の声を伺うことができた。さらに患者さんたちを前に視野の狭窄した状態を体験。日常の不便さを実感することで、患者さんたちの様子と繋げて共感することのできる機会ともなった。

「二口に見えないといっても、全く見えない人から少しは見えている人までいる。どうして欲しいかということも人によってまちまち。それぞれに対応しなければいけないことがわかった」など、学生にとっては現場を実感できる有意義な時間となったようだ。「これを機にこの問題に関わって行きたい」という学生もいた。

(視機能療法学科講師 小町祐子)



PET-CT見学会・講演会を開催
本稼働に先立ち九月一日、院内外に向けて『PET-CT見学会・講演会』を開催しました。

『三田がんフォーラム』開催
八月四日、港区医師会の医師をお招きして『第一回三田がんフォーラム』を開催しました。



PET-CTの稼働の様子

最新式の動作解析装置(VICON M Xカメラ)
設置した動作解析室が、附属三田病院内に開設されました。

山王病院 プレネイタルビジットと
核家族が多く、また一度も赤ちゃんに触れたこともなく母親になる女性が増えた昨今、育児に対する悩みや不安は大きくなるばかりです。

附属病院

国際医療福祉大学附属三田病院

PET-CTの本稼働スタート

九月二日より、当院においていよいよPET-CTが本稼働を始めました。十月に入ってから連日の稼働となっている状況で、病院誌にもPET-CTの稼働数の欄を設けてレポートを開始しました。

『三田がんフォーラム』開催

八月四日、港区医師会の医師をお招きして『第一回三田がんフォーラム』を開催しました。

『第二回三田がんフォーラム』は十月二

五日、ホテルニューオータニで開催された『医療連携懇談会』(三田病院・山王病院共催)の冒頭、「乳がん治療の現状と将来」のタイトルで吉本賢隆・乳腺センター長が講演を行いました。

臨床医学研究センター(東京地区)

山王病院

プレネイタルビジットと

核家族が多く、また一度も赤ちゃんに触れたこともなく母親になる女性が増えた昨今、育児に対する悩みや不安は大きくなるばかりです。

そのような中で当院の小児科では、産科と連携して、出産前に小児科医と個別に相談のプレネイタルビジットと、一般的な一ヶ月健診より前、生後二週間前後を目安に赤ちゃんの状態をみて授乳、育児に対する不安を解消するための「新生児外来」を始めました(完全予約制)。

それぞれ個別にゆとり時間をとってお話できるので、お母様方の状況に合わせて、出産の前からケース・バイ・ケースで相談が受けられます。

施設インフォメーション

附属病院

国際医療福祉大学附属熱海病院

『第一回公開講座』

一〇月一五日(日)、熱海市観光会館において「人間ドック活用術」をテーマに第一回公開講座が開催されました。



メディカルチェックに参加する市民の皆さま

『第三回熱海DMポートの集い』

糖尿病友の会「熱海DMポート」は、附属熱海病院の糖尿病患者様の情報交換等を目的に発足されました。



DMポートの集い

人間は「ことばによるコミュニケーション」によって思いや考えを共有し、社会を築き文化を発展させてきた。

私の主張 第2回 コミュニケーション力を高める
数々の文を生成できることにあり、メッセージを伝達する基本的単位は文である。



健康教室で講演する満留先生

「西那須野ふれあいまつり」に参加
『西那須野ふれあいまつり』恒例の「流し踊り」(七月二十九日)に、国際医療福祉病院・マロニエ苑・栃の実の三施設職員有志総勢一〇〇余名が参加、夜の西那須野駅前を練り歩きました。
「流し踊り」といえば毎年参加者の衣裳が注目されますが、今年も施設名入りの健康教室は今後も定期的に開催。マロニエ苑への入所者も随時募集していますので、お気軽にお問い合わせください。
(マロニエ苑 小林孝久)

高木病院

臨床医学研究センター(九州地区)

小児科の健康教室がスタート

まず、グループの病院として初めてDPCを導入し、三ヶ月を経て順調に運営されていることを報告いたします。

広報室では、地域にさらに密着した病院を目指し、現在、小児科の健康教室、肝臓病センター、そして建設中のがんセンター開設の紹介に力を入れています。

小児科の健康教室は、前福岡大学医学部小児科教授で現国際医療福祉大学リハビリテーション学部の満留昭久先生が当院の小児科医として着任されたのを機に、先生の発意により計画され、第一回目を九月中旬に開催、多数の地元の方々が参加しました。先生は、メインテーマ「小児科医から見た子育て」、サブテーマ「母子の絆」という演題で講演。参加者は先生の絶妙な口調に聞き入り、「子育てに自信が持てた」「育児には完璧はないことがよくわかった」「先生のお話を参考にしたい子どもに接していきたい」「次回も楽しみに

がんセンター、来春オープン
大川市のある福岡県南部、佐賀県全域、熊本県北部では初の、がん早期発見に威力を発揮する最新鋭機PET-CTを備えたがんセンター(仮称)が建設中です。工事は順調に進み、来春一月オープン予定。オープンに向けてパンフレットを作成し、関係機関に出向いて紹介、また、新聞・タウン誌等で大々的に発表することになっています。PET-CTに引き続き、来年夏には放射線治療機器も導入を予定しています。
(総務課長兼広報室長 平川喜久)



笑顔で対応するスタッフ

「回復期リハビリテーション病棟」とは、入院患者が回復期リハを要する状態の患者と特定され、入院目的が日常生活動作(ADL)の向上、寝たきりの防止、

柳川リハビリテーション病院

臨床医学研究センター(九州地区)

より充実したリハビリテーション サービスを目指して

柳川リハビリテーション病院では、今年五月より、回復期リハビリテーション病棟を一病棟六〇床から二病棟一二〇床に増やすと共に、リハビリテーションサービスの三六五日体制を開始しました。

一般に、発症からできるだけ早く、そして集中的なリハビリテーションを行うことが効果的とされていますが、当院では、理学療法(PT)、作業療法(OT)、言語聴覚療法(ST)などを、土・日・祝日も含め、三六五日間提供する体制が整いました。

「回復期リハビリテーション病棟」とは、入院患者が回復期リハを要する状態の患者と特定され、入院目的が日常生活動作(ADL)の向上、寝たきりの防止、

家庭復帰と明確であり、さらに入院日数も限定された新しい形の病棟です。
また、急性期病棟の在院日数が短縮化されつつある最近の状況下では、急性期医療と維持期の介護保険サービスなどの中間的役割を担う立場とも位置づけられ、その目的は、地域リハビリテーションの概念とも共通するものです。
現在、全国には多数の回復期リハビリテーション病棟を備えた病院があります。しかし、三六五日体制によるサービス提供を行うためには、PT・OT・STのスタッフの充実に加えて、看護・介護部門との連携が必須となります。
当院は五〇名を超える多数のリハスタッフを有し、さまざまな工夫によりチーム連携も強化しています。また、高次脳機能障害や神経難病などの難しい症状を示すケースに対しては、回復期リハビリテーション病棟の入院期間が延長されるというメリットを活かし、さらに併設の神経難病センター(神経難病専門病棟)との連携により期間的にもリハビリテーション治療を充実させています。
五月以降は、順調に家庭復帰率を高めつつあり、今後も更なるサービス向上に努めたいと考えています。
(リハビリテーション部作業療法室室長 永田誠一)

国際医療福祉病院

臨床医学研究センター(栃木地区)

「生き生き老後の健康教室」開催

介護老人保健施設マロニエ苑で七月二日、健康や介護について学ぶ「生き生き老後の健康教室」が開催されました。
第一回は「オシッコでわかるお年寄り



「お年寄りの方が快適に過ごせるよう、地域の皆さまのご要望に応えられる活動を続けていきたい」と、徳江章彦・マロニエ苑施設長。
健康教室は今後も定期的に開催。マロニエ苑への入所者も随時募集していますので、お気軽にお問い合わせください。
(マロニエ苑 小林孝久)



はつぴの行列、ナース服の男性陣、人気ドラマ『医龍』を忠実に(?)再現した「チームコクサイ」を名乗るオベ着の集団など、バラエティ豊かに審査員にアピールすることができました(その結果、努力賞を受賞!)。
今後地域医療の担い手として、地域の皆さまとのふれあいを大切に、医療福祉に貢献していきたいと思えます。
(国際医療福祉病院総務課 増淵智実)

「おたわら風花苑」竣工

国際医療福祉大学構内に新設予定の特別養護老人ホーム「おたわら風花苑」(定員七〇名)が完成しました。
本施設は、特養の新しい方式であるユニット形式を採用し、居室は全個室(トイレ付)でプライバシーが確保され、好きな家具等を持ち込むことができます。小規模単位(ユニット七〜一〇名)による共同生活の楽しみもあり、大田原市をはじめとする、地元の皆さまから大きな期待が寄せられています。
入居開始は、二〇〇七年二月を予定。今後は備品整備・入所手続き・職員教育などグループ職員が協力し、入居開始に向け万全を期していきたいと思えます。
なお、施設名称の募集にあたり、皆さまから一九一件という多数のご応募をいただき、おかげさまで素晴らしい命名ができました。厚く御礼を申し上げます。
(邦友会 特養準備室 千葉芳雄)

化学療法研究所附属病院

臨床医学研究センター(千葉地区)

「夢は看護師」—— 高校生ふれあい看護体験

看護職に興味を抱く高校生を対象とした「看護進路相談プログラム」(千葉県看護協会主催)が夏休みを利用して実施されました。
看護学校の説明や、先輩である新人看護師による「看護師へのプロセス」を熱心に聴講した後、午後は担当看護師とともに、いざ療養病棟へ。

ユニフォームに袖を通し、希望に満ちた表情で臨んだ参加者六人でしたが、細かな指導のもと、バイタル測定、ベッドメイキング、洗髪、足浴などの実習に入ると、少し緊張した面持ちで取り組んでいました。やがて、患者様とのコミュニケーションが取れるようになると、確かな手ごたえを実感したのか、病棟は爽やかな笑顔に包まれました。



緊張の面持ちで「足浴」の実習に臨む参加者 (撮影/株) 明光企画

体験後には、「職業として誇りが持てる看護師を目指す意志が固まった」とのコメントも寄せられ、若き看護師予備軍の皆さんが「看護師への道」を切り拓く一助となったようです。
小学校に寄贈、地域の架け橋に
当院ではCSR(Corporate Social Responsibility)：地域住民との関係を大切にし、具体的かつ実効性のある配慮行動をとることの一環として地域貢献を推進するため、院内各職場の使用済みインクカートリッジの回収に取り組みできました。
この度、ケース二箱を寄贈するため近隣の市川市立国府台小学校(児童数六五六名)を訪問。「治療が必要な怪我をした場合、学区内にある化研病院は心強い存在です。リサイクルの勉強にもつながる今回の寄贈はありがたく、ベルマークに換算し、有効に使わせていただきます」と高橋邦夫校長。
今後も引き続き地域貢献を約束するとともに、怪我をした児童の受け入れなど万一の対処について、小学校と化研病院の連携のあり方を確認するよい機会となりました。
(総務企画課 石垣裕子)



左：国府台小学校・高橋邦夫校長
右：化研病院事務部・大西三善
院内で回収した使用済みインクカートリッジ



より充実したサービスを

「医療福祉チャンネル774」おすすめの番組

医療福祉チャンネル774では、衛星放送スカイパーフェクTV!774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送!

国際医療福祉大学アワー

IUHWに関する情報満載

入学式、運動会、風花祭(大学祭)、卒業式などの行事や、臨床実習、海外研修、そしてクラブやサークルの紹介、先生方へのインタビューなど、IUHWに関する情報満載の番組です。学生の方々はもちろん、ご父兄の方々にも是非ご視聴賜りますようお願い申し上げます。



運動会



臨床実習

黒岩祐治のメディカルレポート

第31回 さまよえる医療難民～民間病院の危機

地域の医療を支える民間病院の危機について、大阪のある病院を例に考えます。この病院は平成14年、日本医療機能評価機構の認定基準を参考に病院を新築移転、高度医療器具を設備して医療の質を高めました。結果、外来患者が多くなったにもかかわらず、赤字に陥りました……。



左：黒岩キャスター（国際医療福祉大学客員教授）
右：佐藤真杉理事長（佐藤病院・日本病院会副会長）

社会福祉士受験講座2007

2007年1月28日の試験に向けて開講!

身体上・精神的に障害のある人や高齢者の福祉に関する相談を受け、指導や助言、援助を行う社会福祉士は、厚生労働大臣認定の国家資格のひとつです。試験科目は13科目と幅広く、効率的な学習が必要です。テレビ受験講座でペースをつかみ、着実に「解答力」をつけましょう。



講師の鈴木五郎氏（国際医療福祉大学医療福祉学部長）

介護福祉士受験講座

インターネットで学習できるようになりました!

医療福祉チャンネル774で毎年大好評の受験講座が、ついにインターネットで配信開始!
いつでも・どこでも・何度でも……
忙しいあなたも自分のペースで学習できます!

「ケアマネジャー受験講座」も配信中



サンプル動画はこちらから
<http://www.mew-learning.tv>

完全準拠
テキスト
ついています!



●医療福祉チャンネル774を見るには

「医療福祉チャンネル774」は衛星放送スカイパーフェクTV!の774チャンネルでご視聴いただけます。ご視聴には、スカイパーフェクTV!専用アンテナ&チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ!

- 視聴料・・・月額2,100円（このほかに、スカイパーフェクTV!加入料・・・2,940円(初回のみ)・スカイパーフェクTV!月額基本料・・・410円がかかります）
- 法人契約・・・5,250円
- IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問い合わせ下さい。

●視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774（(株)医療福祉総合研究所 お客さま係） Eメール info@iryoufukushi.com HP www.iryoufukushi.com/

広報誌 IUHW 67号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原本校〕広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000

〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500

〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000

〔東京事務所〕出版広報室
東京都港区南青山1-24-1 ☎03-5775-2505

デザイン：iDept.

写真：大木 茂、子どもたちへ届けwith dreams登山隊、ほか
編集：東京事務所出版広報室

©国際医療福祉大学 2006 Printed in Japan

禁無断転載・複写

IUHW 短信

IUHW Note

卒業生の田中麻子さんがグランプリ

本号では国際医療福祉大学の卒業生である松本志志さんの「挑戦」を松本さん自身に報告していただきましたが、この秋、音楽の分野でこんな「挑戦」をした卒業生もいました。

10月9日、東京国際フォーラムで、音楽を通じたチャレンジド（障がい者）の自立と社会進出の支援を目的に第3回「ゴールドコンサート」が開かれました。主催はNPO法人日本バリアフリー協会。全国からの応募132件の激戦を勝ち抜いた15組の障がいを持つミュージシャンがこの日のコンサート（コンテスト）に参加、卒業生の田中麻子さん率いるバンド「Darjiling」がグランプリの栄冠に輝き、あわせて作詞賞も受賞しました。田中さんは大学院の作業療法学分野を平成14年に卒業、Darjilingではボーカル、作詞・作曲と八面六臂の大活躍。おめでとうございました。